

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4190200412		
法人名	株式会社 清華の森		
事業所名	グループホーム 清華の森		
所在地	佐賀県唐津市見借4749番地1		
自己評価作成日	平成30年3月6日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成30年3月27日	外部評価確定日	平成30年6月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様、御家族様、職員みんなの笑顔が絶えない事業所を目指しており、一人ひとりの力に応じた支援に力をいれております。また、ご利用者様の住んでおられた地域の事がよくわかる職員が多く、地域についてのお話がよくできています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

理念の他に敢えて「清華の森のルール」を掲げ実践している。その中でパーソン・センタード・ケアを謳い、個性を尊重するとの文言もある。それは利用者を一人の人として尊重し、利用者に向き合ったケアを提供したいという姿勢でもある。職員同士が互いのフォローをし、チームワークの良さにも自負がある。長閑な自然環境の中で、利用者とのスキンシップを大切にし、笑顔がみられるよう支援している。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、理念を朝礼で行っている。常にいつでも認識、実践出来る様に心がけ、目標を定めるなど職員の方向性の統一を図っている。	理念は開設当時の職員達によって創られたものである。毎朝の唱和や、目に付く場所への掲示で意識付けを図っている。また、理念をより具体的に表した清華の森のルールも掲げ、「個性を尊重します」「行動を柔軟に受け止めます」等々を実践している。法人代表者は日頃から言葉の暴力についても説いている。理念やルールを常に立ち戻る基本とし、パーソン・センタード・ケアも謳っている。トイレや口腔ケアへの誘導で声を掛ける様子には、それらが活かされているのが窺える。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティアの回数は現在少ないが、地域の方にも呼びかけ実施している。地域で催事などがあればいつでも参加出来る様に、地域の人と連絡を取り合っている。	自治会に加入しているが周辺に住宅はなく、区民との日常的な交流は地理的に難しい。地元の情報は運営推進会議の折にメンバーから伝えられている。地域住民が行う清掃活動への積極的な参加や、祭りで披露される浮立見物にも出掛け、事業所を知ってもらえるよう努めている。また山間を通る道路沿いに建っているため投棄ゴミの多さにも気付き、月1回は必ずゴミ拾いと決め実行している。地道な活動である。近くの農産物販売所とは見守りや連絡を頼める関係を築いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営会議を通し、参加された家族や、面会に来られた家族に対しては行っているが、地域に向けてはやっていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	アドバイスや情報を頂き実践したり、御家族様や地域代表の方に提案して頂き、ケアに生かせるようにしている。次回の運営推進会議で結果を報告などしている。	約1時間の会議である。行政側や地域の役職者、家族も出席しており事業所からの報告だけで終始しないよう努めている。メンバーの意見で、会議時には名札を各人の席に置くようになった。名前と顔が一致することで、運営推進会議だけではなく交流が深まることも期待している。玄関に職員の写真と名前を掲示する事もこの会議の意見からである。回覧板を利用した発信など、専門知識を活かした貢献も出来るよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者は運営推進会議にも出席して頂き、事業所の運営報告、意見交換などを行っている。電話などでも適切なアドバイスを頂いている。	運営推進会議以外での接点はあまりないものの、行政側には以前から顔馴染みの職員もいて話しやすい関係である。相談事があれば電話も掛け、丁寧な対応をしてもらっている。また毎月訪れる介護相談員の率直な意見は、事業所にとって貴重なものとなっている。訪問する毎に現状を理解してのアドバイスや、利用者との橋渡し役としても期待を寄せている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束においては、行わないと言う方針で話し合い、ケアにも努めている。	入居契約時に指針の説明を行っている。研修を個人的に受けたり、職員会議では勉強会のテーマとして取り上げる事もある。玄関に施錠はなく、センサーによるチャイムは鳴るが、来客時でも同様で、必ず職員が確認している。もし外へ向かう利用者がいても行動を抑えることはない。職員の目配り等により安全な暮らしが支援されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の具体的な行為、言葉使いひとつからも虐待につながる事を念頭に置き、見過ごす事のないように注意している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現状は中々学ぶ機会が少なく、必要な際は活用し支援していく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結ぶ際は十分な説明を行い、内容を理解して頂いて、同意を得、契約して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用様が自分の思いを気軽に話せる雰囲気を作り、傾聴している。ご家族様へも定期的に電話や、面会に来られる家族様からの意見を頂き情報を得て、話し合いを行い改善に努めている。	家族には毎月の利用料を持参してもらい来所を促している。請求書送付時には担当職員(半年毎に交代)による近況も添えている。事業所では直接会える機会を大切にしており、家族の想いが汲み取れるよう努めている。なかなか来られない家族には電話やメールでの対応もある。また、訪れる家族にも高齢化がみられ健康面などへの配慮もしている。年1回の家族会では、事業所への要望等が出やすいように家族同士で話し合う時間を設けることも検討している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝礼、職員会議などで、意見の出しやすい雰囲気を作り、良い提案、意見は反映させている。報告、連絡、相談、意見が出来る体制づくりに努めている。	開設して1年のグループホームが隣接している。月に一度の職員会議はその施設と合同で約2時間、休みの人も出席して開かれている。限られた時間を要領よく進めるため内容を事前に周知しておくことも工夫のひとつである。カンファレンスや日頃のケアに関する事、勉強会などが主な内容である。管理者としては働き易い職場であるよう配慮も必要で、職員とのコミュニケーションや褒める時は皆の前でと心掛けている。経験に係わらず若い職員から学ぶ事もあり、逆にベテランだから伝えられる事もあり、お互いによい関係である。また、現場の声は上席にも届けられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々との面談などを取り入れ、職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	なかなか外部の研修を受ける機会は少ないが、個人的に受けた研修は勉強会等で発表し共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は紹介をして頂いた同業者に会議の案内等をしたり交流は出来ているが、管理者のみで、職員は出来ていない。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	御本人様、御家族様の意向を優先したプラン立て支援している。主治医や職員からの適切なアドバイスを受け、安心して生活できるケアの取り組みを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に御家族様の意向や不安、困りごとを聞きだし、入居後も面会時や、電話などで対応し、安心して頂けるよう、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族様と本人様の状態について話あい、本人様の状態を見極め御家族様と検討している。他の施設のパンフレットも準備し説明行い入居が適切か決めて頂いている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お互い尊重し合う気持ちで自立を促し、家庭的な暖かいケアを心がけている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	必要があれば、電話をかけたり面会や帰宅などをお願いしている。病院受診と一緒に付き添ったりなどもしている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時には自室やリビングにてお茶やお菓子などをお出し、ゆっくりと過ごして頂ける様配慮している。また、自宅の付近までドライブしたり、自宅まで荷物を取りに行ったりなどの支援をしている。	入居までの馴染みの関係などは本人や家族、担当のケアマネージャー、利用していたサービス事業所からも話を聞き情報を集めている。具体的な支援として電話の取り次ぎや手紙のやり取りはあるが、歳を重ねる毎に難しくなっているのも現状である。盆正月の帰宅は少数になり、墓参りや以前はあった馴染みの美容院へ出掛けることもなくなっている。事業所には機会があれば応えていきたいという想いは窺える。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は、利用者様の間で会話が弾むように課題を提供し、レクや行事を通してお互いが良好な関係を保てるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が切れた方(御家族様)とも、連絡を取り、相談にのれる様努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	その都度御本人様にお伺いし、希望、意向の把握に努めている。職員全員が、それぞれの生活のパターンを把握し、個々にあったケアを心がけている。	利用者と一対一でいる時、例えば寝る前に隣りで話し相手をしている時や、入浴中の寛いでいる時などは思いが聞けることがある。発語の少ない利用者とは昔の事を尋ねたり、ゆっくり話してもらうこと、また日々の傾聴の積み重ねから把握に至っている。聞き取ったことは申し送りノートや経過記録簿に記すことで共有を図っている。それらは状況を知るきっかけとなり、プラン作成の参考にもなっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御本人様、御家族様、関係事業所から情報提供して頂き、入居後も聞き出せなかった情報を得たりしている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃から御本人様の出来る事、出来ない事を見極め、心身状態に応じたケアが出来る様、努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御家族様の面会時に御本人様を踏まえ、今後のケアの在り方について話し合い、要望を聞きだし、現状のニーズにあった介護計画を作成している。	ケアプランの設定期間は、入居して間もない頃は毎月や2カ月毎、その後、3カ月毎、6カ月毎と利用者に応じた期間を設けている。その間に変化があれば臨機応変に見直している。本人の希望は日々のケアの中で把握し、家族の要望等は来所時や電話での会話から汲み取るようにしている。プランの説明は来所時に行うのが殆どで、医師から出された留意点なども伝えている。毎月モニタリングを行い、設定期間毎の評価はもちろん、利用者主体であるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	状態の変化や気づきなどは、記録又は連絡ノートなどを活用し、ケアの統一を図ると共に、介護計画に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御本人様、御家族様の状況に合わせて話し合い、対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	出来ていない。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	御本人様、御家族様の意向を尊重し、希望される医療機関を御家族様と職員が連携し利用して頂いている	現在は、全員、協力医の受診である。入居後に、訪問診療の説明などを聞き、納得しての変更である。他科受診では希望する病院を選択してもらい、事業所はそれに応えている。殆どが職員の付き添いによるが、家族への結果報告も出来るだけ当日中に行っている。特に変化がない場合でも同様である。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員とは連携を密にし、報告している。体調の変化時や急変時にはすぐに連絡し指示をおおいでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は介護添書で情報提供をしている。定期的に訪問し病院側とも情報を共有している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にホームの方針、御本人様とご家族様の意向の話し合いをもっている。また御本人様の状況にあわせて、その都度主治医や看護師とも話し合いが出来る様にしている。	これまでに看取りの経験があり、今後も希望があれば応える用意はある。入居契約時には指針を説明し内容や手順にも触れている。容態の変化に伴い揺れ動く家族の気持ちを踏まえ、その都度、話し合いを重ねる事としている。職員へのフォローも重要で、経験のある管理者がいることは心強い。職員が自信を持ってケアに関われるよう勉強会なども検討している。本人や家族が安心して最期を迎えられるよう配慮が窺える。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時や事故発生時のマニュアルを作成し、発生時の対応について話す機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に年2回消防訓練、防災訓練を行っている。そのうち1回は必ず消防署の立会いの下、通報訓練、避難訓練、消火訓練を実施。職員会議などでも避難経路や外での避難場所などを確認している。	年2回の訓練があり、そのうち1回は消防署の立会いもある。同じ敷地内に建つ事業所と合同で昼間に行い、夜間は想定のみである。その想定時には、夜勤者である職員がひとりで対応する訓練も行っている。利用者も一緒に避難を体験し、職員は消火器や火災通報装置への対応も出来ている。水の備蓄はあり、今後、非常食等も備える予定である。周辺に住宅はなく、スプリンクラーが作動すれば衣服も濡れ、冬場であれば寒さを凌ぐ物も必要となる。訓練での指摘や反省点は職員会議等で周知はしているものの、記録として整備していくことが望まれる。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの生活歴や性格を把握し、入居者を尊重した声掛けに対応するよう、毎日の朝礼にて職員に徹底周知するよう心掛けている。	トイレや入浴の介助では羞恥心への配慮が最も必要な場面である。事業所では、ドアを閉めることや見え難い立ち位置でのケアなど基本的なことをきちんと行っている。また、口頭で伝え合う場合、プライバシーに係わる内容毎に付けた番号で表し、外部の人が耳にしても分からないよう配慮している。個人情報の取扱いに対する職員の意識も高く、ケアの途中でも声の大きさには注意している。居室の名札表示や写真掲載等への承諾は言うまでもない。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃の会話の中で御本人様の意思を確認したり、自分の思いを伝えやすいような雰囲気作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	御本人様のペースを大切にし、希望に沿った支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身の回りの物や、お洋服、化粧品など、御本人様と一緒に買い物に行ったり、髪のカットや、ヘアカラーなど、ご希望にて行ってもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る限り、野菜などを切ってもらったり、皮をむいてもらったりしている。時々は食器洗いも手伝って頂いている。	献立は冷蔵庫の中身や、利用者に食べたい物を尋ねながら決めており、一般の家庭と同じである。好き嫌いやアレルギーの有無の把握もしており、苦手な食材の時には代替もある。なかなか箸が進まない利用者には声を掛けながら、出来るだけ自分で口へ運んでもらいたいとの想いで支援している。歳を重ねる毎に手伝える事も少なくなっているが、下ごしらえや片付けを一緒に行う利用者もある。職員は話をしながら同席している。誕生日は当日に祝い、リクエストされた食事やケーキが用意されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量をチェックし、必要な栄養が摂れる様支援している。御利用者様に応じ、二炊き、トロミきざみなどの支援を行っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、ご自分で出来る方には、声掛けし、難しい方には、介助にてケアを行い、清潔を保つようにしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	観察しタイミングをみて、出来る限りトイレでの排泄を促している。	現時点で尿意も分かり自立している利用者が3分の2ほどいる。任せたままでなく、さりげない見守りも行っている。チェック表があることでタイミングを計ったり誘導も可能となっている。日中はトイレでの排泄を主とし、タイムリーな誘導でパット類の使用枚数が減ったり、紙パンツ等から改善した例もある。職員はオムツ類へのコスト意識が高く、個人負担となる費用の軽減にも努めている。トイレ内では手摺りのほか可動式のひじ掛けもあり立ち座りを助け、自立を促している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量に気を配ったり、なるべく食物繊維が摂れる様、食事にも気を配っている。また毎朝ヨーグルトを摂取して頂いたり、体操や運動を毎日行っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	時間帯や曜日はある程度決められているが、希望があれば合わせられる様に、配慮している。	入浴は概ね週3回を目途にしている。嫌がる人もいるが職員の誘導により支援できている。入浴しない日には清拭での対応もあり、必要があればシャワーも使用している。浴室は建物の端で窓が多いため明るく、浴槽は普通浴タイプと昇降式ストレッチャータイプの設置がある。現在は普通浴タイプのみ使用で、一人ずつ入浴を楽しんでいる。脱衣場の暖気を浴室へ送ることでヒートショック対策にもなっている。衣服の脱ぎ着や体を洗うなど出来ることは本人に任せ見守っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	御利用者様のペースや体調に合わせて、休息して頂ける様、支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	決めた場所での保管。服薬時にはお名前、薬の内容の確認、飲み込みの確認をしている。又、薬の変更時などがある場合は、申し送りノートに記載し、職員同志、情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の楽しみや嗜好を理解し、できる事を活かしてもらい、張りのある生活を送って頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、ドライブ、買い物など、外出の機会を作っている。又、家族の方と一緒に行き、外食を楽しまれている。	本人の口から外出の希望が聞かれることは少ないが、話題を振れば興味は示してもらえ。天候や体調をみて当日に決め出掛けることも多く、車椅子使用であっても一緒に出掛けている。少し坂を上げれば所有の展望台があり、そこからは唐津の名所が一望できる。職員は日差しを浴びるメリットや五感への刺激も理解している。全く外へ出ないという利用者はいない。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額の現金は所持して頂いている。買い物などでは、ご自分で財布から支払いを頂いている。金銭面でトラブルになりそうな方は預かり書を出し、出納帳をつけている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はいつでも出来る様にしている。手紙のやり取りも出来る様、職員がポストに投函し支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、リビングには季節の花を活けたり、ご利用者様やご家族様が描かれた絵画などを展示し、落ちついた雰囲気作りをいている。温度調整はご利用者様の体調に合わせてしている。	玄関には季節の花が飾られ、靴が履きやすいようにベンチも置かれている。廊下には利用者が描いた絵が掛けてあり、通行を妨げる物はなく、歩行練習をする人もいる。リビングでは中央にテーブル、窓際にソファがあり、利用者が日中の殆どを過ごす場所となっている。午前午後窓を開け換気も行っている。山間を縫う道路扱いではあるが騒音は殆ど気にならない。浴室やトイレはきれいに掃除され不快な臭いはない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには、テレビ、ソファを置き、くつろげる様にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	必要な物、家にある使い慣れた物を、持ってきて頂き、ご使用されている。	火気などの危険物以外に持ち込む品物への制限はしていない。各室にクローゼットがあり収納が出来ることで室内はすっきりと整頓が出来ている。掃除は毎朝職員が行い、居心地よく過ごしてもらえよう支援している。また、衣替え等の手配も担当職員の役割であり、家族の希望があれば宿泊も可能である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の表札、トイレの表示など見やすくしている。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入)
 ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない